

# 平成27年度 全国盲学校弁論大会 浜松大会

優秀賞〔中国・四国地区代表〕

## 「大切」

愛媛県立松山盲学校中学部2年三好里奈（14）

皆さん、自分や周りの人を「大切にする」とは、どういうことだと思いますか。私は、自分が見えなくなったことで、このことについて、より深く考えるようになりました。

幼い頃、私の視力は、0・03あり、見えづらさは感じていましたが、家族の顔、きれいな花やかわいい動物などがなんとなく見えていました。毎日保育園に通い、友達と一緒におしゃべりをしながら給食を食べたり、ブランコに乗ったりして、楽しかった思い出しかありません。家に帰ると、兄にちょっかいを出され、「負けてはいられない!」と思いき口答えすることもありました。そういえば、よく「あんたは口が達者やね」と言われていました。

小学1年生、私は松山盲学校に入学しました。両親から離れての寄宿舎生活は、少し不安でしたが、友達や先生方と出会い、すぐに寄宿舎が大好きになり、笑顔の絶えない毎日でした。家の近所の児童クラブへも通い、盲学校以外の友達もできました。この頃は、見えづらいことによる苦勞や不安は、あまり感じていませんでした。

そんな私が、自分の目に異変を感じ始めたのは、小学5年生の頃でした。漢字の練習の宿題をしていたときのこと。いつもはっきり見えているお手本の漢字が、なかなか見えないのです。「あれ?おかしいな?ちょっと目が疲れているからかな?」と軽く考えていました。いえ、そう考えようとしていました。ですから私は誰にもその出来事を打ち明けず、ひたすら見ることを続けたのです。

しかし、6年生になると、私の視力は更に下がり、とうとう色の違いや光が分かる程度になりました。そう、私は進行性の目の病気、網膜色素変性症だったのです。視力が下がったことで、これから先、できないこと、人に頼ることが増えていくのか。苦勞して生きていかなければならないのか。あの視力を返してほしい。それが無理なら、前ほどでなくてもいいから見えていたい……。先生と二人きりの教室で、涙が止まりませんでした。

私を待っていたのは、予想していたとおりの生活でした。しかし、私は「前は一人でできていたんだ。人に頼るばかりなんて嫌!見えなくなっても自分でできる!やってみよう!」と現実の自分から逃げていました。そしてその結果、できないことだらけの自分を認められないどころか、責めるようになってしまいました。

中学生になっても、私の自分を責める気持ちは変わりませんでした。

そんなある日、本校の生徒会誌「あゆみ」を読んでいた時のことです。ある一言に手が止まりました。

「自分を大切にできる人は、人も大切にできる！」

今までこんなことは考えたこともなかった私は、「大切にすることか改めて考えてみました。

まず周りの人。これは、「感謝することだ」と思います。「周りの人を大切にすること」とは「手助けをする」ということだと考える人も多いかもしれません。しかし、今の私の場合、助けるよりも助けられることのほうが多いです。だから、自分の時間を割いて私のためにしていただいたことに対し、心から「ありがとう」の気持ちを持ち、それを伝えたいと思います。それが私の「大切にすること」なのです。

次に自分を大切にすること。一つは努力して自分を高めることです。私には目標があります。母のように仕事をして、自立して、結婚して家族がいる生活を送ることです。将来は、大好きな英語にかかわる仕事をしたいと思っています。その目標を実現させるために、努力を怠ってはいけないと思います。ゆっくりじっくり取り組んでいきます。

もう一つは、今の自分を認めることです。今の私に足りないことは、応用力やコミュニケーション力、家事能力。少しでも向上するように心掛けていますが、できないことが多すぎて、「まだまだこんなものでは駄目だ」と、自分が嫌になることもあります。結果がなかなか出ずに、焦ることもあります。でも、頑張っている自分を認め、ときには褒めることも大切だと最近思えるようになりました。

今も、目の病気は進行しています。色の違いが分かりにくくなったり、急に目の前が真っ暗になったり。何かをするとき人より時間がかかってくじけそうになることもあります。そんなときは、将来本当に自立できるのか不安になります。でも私には、私を支えてくれるたくさんの人たちがいます。家族、友達、先生、遠くで支えてくれている人たち。そんな周りの人たちへの感謝の気持ちを忘れません。絶対に。

そして、今日の自分にできることを考え、今を精いっぱい歩んでいく自分を好きであり続けたいと思います。

この春、三好さんは、国際基督教大学（ICU）に入学しました。大好きな英語にかかわる仕事がしたいという目標の実現に向けて確実に前進しています。残念ながら、新型コロナウイルスの感染拡大によって、大学キャンパスが入講禁止となっているため、キャンパスライフをエンジョイという状況ではないのですが、大学が配信しているオンライン授業に苦戦しながらも意欲的に勉強に励んでいます。キャンパスに通えるようになることを願い、その準備と努力を毎日重ねているそうです。

当時と今では障害に対する思いは変化しつつありますが、自他を大切にする手法は今も変わらないとのことで、川之江高校ホームページでの紹介を喜んでくれました。何と！お母さまは本校の同窓生でした。